

令和2(2020)年度 研究テーマ

対話を通して学び 深める授業づくり

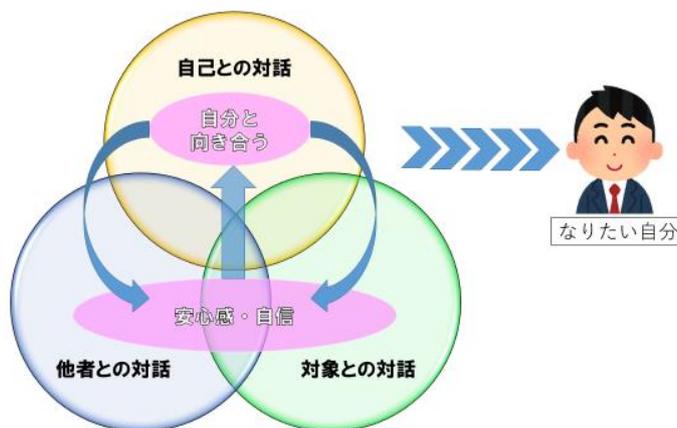
～「なりたい自分」になるために～

(1) テーマ設定の理由

本校では、平成30年度より授業づくりをテーマに、教員一人ひとりが授業研究に取り組むことで授業力の向上を図るとともに、新学習指導要領のキーワードである「主体的・対話的で深い学び」を中心に研究を進めてきた。

昨年度までの研究の中で、高等部卒業段階で「なりたい自分」を導き出すには、他者の存在に心地よさを感じ、安心できる仲間と経験を広げ、他者の良さに気づくことが大切であり、そうすることで「ありのままの自分」「自分のよさ」も受け止められようになると考えられた。そうした自己理解へつなげるためには、高等部の研究で注目した「対話」の力が不可欠である。

そこで今年度は「対話」に焦点をあて、授業づくりを行う。昨年度高等部の研究で、対話は「①対象(教材・教具)との対話」「②他者(教師・生徒・地域の人など)との対話」「③自己との対話」という、3つの視点で見ることができ、人と人との話し合いや言葉を使った対話だけでなく、さまざまなとらえ方が重要であることがわかった。対象(教材・教具など)や他者(教師、友だち、地域の方など)との「さまざまな対話」を通して安心感を高め、自信をつけていく中で「自己との対話(自分と向き合うこと)」を積み重ね、自分の思いを発信していく。そうした繰り返しの中で、「なりたい自分」を見つけ、実現に向けて歩みだすことができると思う。友だち、先生、地域の方、教材・教具など、さまざまな相手との対話の中で、自分と他者の考え方を比べたり、自分では気づかなかったことに気づいたりしながら、自分自身の考えを広げ深める姿をめざし、発達課題別のグループで授業の検討、事後研究会を行う。3つの対話を大切にしながら、教師自身も「なりたい自分」をもち、ともに学び合う授業実践研究にしたい。



(2) 研究の目的

- ・発達別課題グループでの研究を通して、授業づくりのサイクル<PDCA>の円滑化を図る。
- ・授業における対話に着目し、子どもの成長や自己理解へと導くための対話について検証する。

(3) 研究の方法

発達課題別の3グループを設定し、授業検討(アイデアシェアタイム)・事後研究会(めっちゃしゃべれる研究会)を行い、それぞれの発達段階での対話の特徴や系統性を探る。

授業構想を練る

- ・個人研究
- ・研究授業の構想を練る。(デザインシート※を使用する)
- ・どんな題材、教材を使うか、流れはどうするかなど、大まかな授業案を考える。

授業検討会

- ・アイデアシェアタイム
- ・児童・生徒の実態、単元のねらいや活動の内容など、デザインシートをもとに、授業の検討を行う。
- ・自分の困っていることや悩んでいることを出し、グループで考える時間にする。
- ・授業者だけでなく、参加者も自分の授業のヒントが見出せる時間にする。

指導案作成

- ・個人研究
- ・授業検討会で出た意見も踏まえ、指導案を完成させる。

研究授業

- ・研究授業当日
- ・授業のビデオ撮影を行う。発達年齢に幅のあるクラスの場合は、グループの対象になる子を中心に撮影をする。

事後研究会

- ・めっちゃしゃべれる研究会
- ・グループごとに授業ビデオを見て振り返り、授業中に見られた「すてきな対話」シーンを出し合い、その要因や効果について語り合う。
- ・大学の先生方にリモート参加していただき、意見をもらう。

まとめ

- ・各グループリーダーが事後研究会の記録をまとめ、発行する。
- ・アンケートを集計し、よりよい事後研究会の在り方について検討していく。

※デザインシートについて

子どもの実態、教師の思いをもとにどのような授業を考えていくのか、見やすくしたもの。このデザインシートを用いて授業検討会を行い、いろいろなアイデアを出し合い、授業者だけでなく参加した人みんなが何か参考にできればと考えています。

授業デザインシート①

学部	教科	対象	人数
		発達年齢	授業者
子どもの目標で考えて・・・		教師の思いは・・・？	
興味・関心	できること(強み)	苦手なこと(課題)	この教科で育成したい資質・能力
			この単元で目指したい姿
なりたい自分(子どもの願い)	両者の思いを合わせて、よりよい授業を考えよう！		
教材・教員	活動	手立て・支援	予想(期待)する子どもの反応